

## 検討会におけるコメント対応状況

平成28年10月21日  
原子力規制庁

### ○廃棄物発生量の見通しと今後の管理について

番号	有識者等のコメント	検討会	東京電力からの回答
1	半減期に基づく検討等適正な貯蔵方法を検討するにあたり、核種を同定すべき	第1回	第3回資料2-1
2	廃棄物の発生量について、全体像をしっかりと把握し、可燃・不燃など性状に着目した分類を行うべき	第1回	第3回資料1
3	廃棄物については、どのような保管状態であるかわかるよう工夫していただきたい	第2回	第3回資料2-1
4	線量だけの分類となっていることから、線量と物質あわせて総合的に分類を行うべきではないか	第2回	第3回資料1
5	現時点から $\alpha$ 核種の有無等を調査しておくこと	第2回	第3回資料2-1
6	覆土式一時保管施設のモニタリング方法について、観測孔から水だけでなく、土壌のモニタリングも必要なのではないか	第1回	—
7	放射能濃度分布や建屋内部で採取したガレキの分析について、サンプル数が少ない。シミュレーション等を組み合わせて、より小さな区画でのマッピングや相関をとるべき	第1回	—
8	5 $\mu$ Sv/h 以下の廃棄物の扱いについては、再利用を含め今後検討すること	第2回	—
		第3回	

9	2次分類を行う際に低減するインベントリ等について整理すること	第2回	—
10	増設焼却炉の設置に3年半を要するとのことだが、伐採木に付着する放射性物質の濃度は保護衣よりも高いことが考えられることから、早期の運用開始のため総合的なリスクや適切な設計上の考え方を考慮し、複数案をもとに検討	第3回	資料4-4 資料4-5
11	コンクリート・アスファルトについて放射線分解による水素の発生の可能性について	第3回	—
12	雑固体廃棄物焼却設備の運転状況について	第3回	資料4-3
13	焼却設備について灰やフィルタにどのような核種が含まれているかについての分析の結果	第3回	—

## ○廃棄物の計測・分析について

番号	有識者等のコメント	検討会	東京電力からの回答
1	一時保管を保管管理に移行していく上で必要な分析能力や余裕を持っているのかを示すこと	第2回	第3回資料2-2
2	最終的に必要なサンプル数から逆に絞り込んでいく方法もあるのではないかと。ある程度の想定を持って分析の必要性を絞り込んでいくべき	第2回	—

## ○使用済保護衣及び伐採木の管理について

番号	有識者等のコメント	検討会	東京電力からの回答
1	増設雑固体廃棄物焼却設備を2基つくることの方が合理的ではないか	第2回	第3回資料1
2	伐採木一時保管槽のガス抜き管について、ガス抜き管の配置の考え方はあるか。発生した発酵ガスの挙動についての知見はあるか。ある部分に溜まったり	第1回	第3回資料3

	することはないのか		
3	監視カメラの導入計画等の対策実施状況について	第3回	資料4-2

○沈殿処理生成物貯蔵容器（HIC）のたまり水発生の原因と対策の検討・実施状況について

番号	有識者等のコメント	検討会	東京電力からの回答
1	単位体積当たりの熱放出量に等について、説明すること	第1回	—
2	HICの水抜き、HIC以外の保管方法についても検討すること	第1回	—